

高知県教育委員会発の「授業づくり Basic ガイドブック」が高知県の全教師に配布された。このガイドブックは、高知県教育センターが研究に研究を重ね作り上げたものを県レベルまで引き上げた資料だ。先行して使用している自治体が学力向上に「成果」を上げたことに基づいている。ぜひ、スタンダードと併せて使用して欲しい。

1 グッズを授業前に掲示

スタンダード 10 シラバスの提示ー本時の学習の流れー

- ・本時の学習の流れを提示
 - ・単元全体の中の本時の位置を確認する
 - ・板書位置で説明
- グッズとして準備し、いつでも黒板に貼れるようにしておく。

本時の学習過程の流れを黒板に貼ってあるグッズで紹介する。また、単元全体の中で本時がどのような時間に当たるのか（何を何のために学ぶ時間か）を示し、子供に見通しをもたせるようにする。そうすることにより、子供が主体的に学習に取り組むことができる。大よその時間配分も伝える。

「今日の学習の流れです。ノートに書きましょう。」「今日行うことと、単元全体での本時の位置付けを確認しましょう。」

学習指導要領の総則には、「児童（生徒）が学習の**見通しを立てたり**、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」と示されている。この「**見通しを立てたり**」を分析すると、「学習活動の流れの見通し、課題解決の見通し、見通しを立てられない場合」等と理解することが出来る。

貼ってある黒板のグッズを授業の最初に説明し、授業の流れを把握させるとよい。教科横断的に進めると、子供はどの教科でも学習の見通しをもつことが出来る。

2 課題とまとめは対

スタンダード 9 ゴールの設定

- ・ゴールを見通す
- ・ゴールの□欄を設定
- ・□欄の上にまとめを書く

黒板に課題とまとめの欄があると、子供にも何を追究し何をまとめるかが分かる。教師にとっても、課題と評価の一体を意識することができる。1 単位時間の流れがよく分かるためにも最初にゴールの□欄を書いておくといよい。

「まとめの□欄を黒板に書きました。」「課題の○○を受けたまとめを授業の最後に書きます。課題とまとめの真ん中の欄が書いてありません。班や全体で話し合ったことを真ん中に書く欄です。」

時間内に課題解決が終わらない授業がある。多くは、課題設定に時間がかかったり、導入に時間をかけすぎることに原因がある。そこでゴールイメージを先に教師自身や子供がもつとよい。

なお、課題を追求した後まとめることになるが、そのまとめが課題と正対しない場合がある。ゴールを設定しておけば、そうした問題はおきない。まとめの□欄と、その上に書いてある「キーワード」があるからだ。また、黒板を教師だけが使うのではなく、子供自身も使えるようになる。

3 ビデオを子供と一緒に見る

高知県教育委員会の教育政策課から、モデル授業の配信がはじまった。「授業づくり Basic ガイドブック」を読み取る際、モデル授業を見ればよく理解することが出来る。小学校版が先行しているが、中学校版は喫緊で作成されるであろう。越知町や津野町の後、この研究に続いた安田町の先生がビデオを何回も子供と見たという報告を受けた。子供と一緒に見たのが良かったとのことだ。本年から、土佐町、三原村も越知町、津野町、安田町に続く。先行体験を伝えていただきたい。

- 1 シャベリまくり禁止(スモールステップ) 2 言語わざの導入(スキル) 3 班活動の重視(協働的な学び) 4 授業進行係りの導入 5 「考察(交流)」を行う(協働的な学び) *以上の5点をやりきる!